



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.
19

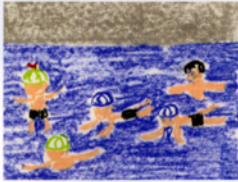
平成21年7月発行



正門、石塀は、国登録文化財



みんなでラジオ体操
昭和16年8月
岡本多住子氏蔵



絵日記「プール」昭和58年 西村和真氏蔵



小学国語読本
巻五
昭和10年

企画展 みんなの夏休み

～家族で話したい、暑かったあの日の思い出～

開催期間：平成21年6月26日（金）～9月14日（月）



比叡山頂お化け屋敷看板
平成8年
京都舞台美術製作所提供

夏休みといったら、何を思い浮かべるでしょうか？友達と暗くなるまで遊んだこと、頑張って通ったラジオ体操、苦しんだ夏休みの宿題など、たくさんありますが、時代が変わればその思い出もまた変化していきます。

今回の企画展では、昭和を中心とした夏休みの資料を展示しています。各年代の夏休みの宿題やラジオ体操の歴史、京都を代表する仮設水泳場だった桂川や山科疏水の風景と、昭和初期の水着といった夏の風物詩の他、昭和の一般家庭の夏の居間を展示室内に再現しました。現在ではあまり見られなくなった蚊帳や古い扇風機など、まるで子どもの頃の自分がそこでお昼寝をしているかの様な雰囲気を実現できたらと思っています。また、京都の夏の行楽地の代表であった、比叡山頂遊園地で実際に使用されていたお化けを使用した、ミニお化け屋敷もご用意しました。

家族三代が、自分が体験した夏休みを語り合い、次の世代へ伝えることで、新たな夏の思い出を作ってもらえることを願っています。

企画展 京が育てた人 京を育てる人 ～京都市文化功労者の作品を中心に～

昭和28年に京都市名誉市民の制度が、昭和43年に京都市文化功労者の制度ができ、200名を超える方々が表彰されてきました。京都市立学校にもこれらの方々の作品がたくさんあり、このたびの一部を紹介いたしました。

展示室に所狭しと作品を並べて感じましたのは、京都の文化の底の深さです。まだまだたくさんの芸術家が居られましたのに表彰しきれていないのです。一方、表彰された方々でさえ、現在の人々が名を知らないことがあるのは残念なことです。きちんと伝えていかなければならないと思います。そして、作家本人やご遺族の方々にご来館いただき、学校にあったことを知らなかった、調べて保存してくれてありがとう、ということばをいただいたことも、その思いを強くさせました。

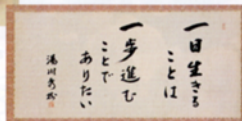


西山英雄 瀬戸内 洛友中学校蔵(元 都文中学校蔵)



16代永楽善五郎
安南写登ん本茶碗
新道小学校蔵

平成21年
3月13日～6月22日



湯川秀樹 一日生ることは一步進むことでありたい 下鴨小学校蔵



川端彌之助
琉球山原船 元 生祥小学校蔵



皆川泰蔵 染色キリン屏風 元 明倫小学校蔵

開催報告 写真でつづる昭和の子ども

～レンズをとおして見た京の世相と学校～

開催期間：平成20年12月19日（金）～平成21年3月9日（月）



市民の方から募集した学校生活写真にくわえて、京都市立小・中・特別支援学校が所蔵する写真を公開する企画展を開催しました。この企画展は3部構成とし「第1部 戦後復興期の京の学校昭和20年代」ではもんべ姿の子どもたちの校庭で遊ぶ姿。また22年から24年にかけて一斉に開校した中学校の「6・3校舎前での青空学芸会」「青空卒業式」など新しい中学校をつくっていった時代の爽やかさが感じとれました。「第2部 懐かしの昭和 世相と子ども 昭和30・40年代」ではブルマ姿での運動会や「オリンピック聖火リレーを声援」やかつての京都の町を走る市電と2ショットの古い型のスクールバスなど、当時の世相を反映した学校生活の一場面を、「第3部 開校ラッシュ2千人の児童が通う小学校・中学校」では主に山科区・右京区・西京区の開発に伴った新設校の様子をご覧いただきました。写真に写った校舎や周辺の地域の様子、そして子どもたちの姿をとおして当時の発展する京都と教育の移り変わりを回顧していただく機会となったのではないのでしょうか。



青空のもとでの卒業証書授与式
昭和27年 双ヶ丘中学校



満員御礼 運動会
昭和29年10月8日
錦林小学校（左写真）



北大路通でスクールバスに乗車
昭和33年 興竹総合支援学校



古文書教室

～学校歴史博物館体験事業～



講師の五島邦治先生(歴史学者/京都造形芸術大学客員教授)のご指導のもと、毎秋開講されている人気の講座です。初心者の方を対象に、京都の町に遺された古文書の中から、当時の京都の町の様子がわかる資料を教材に古文書の基礎と当時の社会背景について学びます。昨年は江戸時代の書物『京都旧記録』の中からこの書物がかかれたいきさつや「江戸上り」の実際、町の構造について学びました。

皆さん熱心にメモを取られ、連続3回のこの講座で古文書を読み解く面白さを体感されています。



京都市の元修徳小学校の校舎が

篠山市の小学校に移築されていました



「修徳小学校関係者交流会」



修徳校名入り鬼瓦

平成19年10月、京都市の旧修徳尋常小学校の校舎が兵庫県多紀郡味間村（現在は篠山市）に移築され、当時の校舎瓦や関係資料が、篠山市立味間小学校に保存されていることが確認されました。

これは、味間小学校の前身である、「味間尋常小学校」と「吹尋常小学校」が昭和3年に統合し、新校舎を建築するに当たって、京都市修徳尋常小学校の校舎（明治38年6月竣工）を買い取り移築したもので、昭和16年までは、校名が「味間村修徳尋常高等小学校」と定められるなど、当時、学校校舎がたいへん貴重に扱われ、校名も大切にされていたことなどを知ることができました。

「修徳」の校名入り鬼瓦は、昨年7月、80年ぶりに京都市に里帰りし、同館に展示されました。また9月には、篠山市・京都市の同じ修徳小学校校舎で学んだ方々や関係者約50人による「修徳小学校関係者交流会」が開催され、校舎で学んだ方からの思い出や、移築に際しての先人たちの努力や苦労話などが語り合われるとともに、今後の交流の推進について話し合われました。

学校歴史ウォーキング～石碑と学校を訪ねて

日本で初めての近代小学校として、1869年（明治2年）京都に番組小学校が誕生しました。その創設140周年を記念して「学校歴史ウォーキング」が平成21年5月21日に実施されました。普段はあまり意識することがありませんが、京都市内には学校の歴史に関わる史跡が実に数多く遺っています。元有濟小の太鼓望楼や、身体に障害をもつ人々の学校「盲啞院」創建地、そして、日本で初めて開校式を行った柳池校記念碑など11カ所を巡りました。少し雲に覆われた天気でしたが、爽やかな新緑の中、鴨川堤の道や堀川に新設された遊歩道などを約6.4km歩きました。参加された皆さんは心地よい汗をかいておられました。明治期の京都人の教育に対する熱い想いを感じる催しでした。



古義堂史跡 伊藤仁斎が1662年に創立した私塾（上写真）



元有濟小学校太鼓望楼 京都市内に唯一残る望火楼（右写真）



ボランティア市民学芸員の声



学校歴史博物館からの贈り物

松尾 節子



市民学芸員として
思うこと

林 壽夫

初めて当博物館を訪れたのは平成11年秋「連続公開講座」の聴講でした。すごいなあ一言。京都の町衆の力に圧倒されました。

その後、市民学芸員の一員として番組小学校の歴史などを案内している内に、一度自分の母校を訪ねて見たいと思う様になり、数年前の春休みに実現しました。旧福知山藩の藩校であった惇明小学校です。在校当時は本館、本校、東校、西校と立ち並び全校児童二千人以上の大規模校だったのが、今はこじんまりと様変わりした中で本館はそのまま残っていたので、職員室でお願いして二階の講堂へも入れていただきました。

大きな大きな講堂はやはり広々として正面の横村正直知事筆「惇明校」の大扁額に初めての対面。前庭には会いたかった二宮金次郎像が記憶通りの場所にひっそりとたたずみ、ふと傍らにはボール紙製のランドセルを背負った小学生の私の姿が見えました。

思いがけず半世紀以上も昔にタイムスリップしながら母校への誇りがしみじみと湧き上がってくるのを実感し、当博物館とご縁のおかげで本当に大きな贈り物を頂きました。来館者の方にもこんな喜びを感じていただくお手伝いが出来ればと願っております。

初めて市民学芸員として当館を訪れた時、洗面所の鏡の位置の低さを見て遠い昔の小学校の思い出が蘇ってきました。

ご年輩の方は、小学校の変遷図をご覧になり統合された自分の母校の事を懐しそくに話され、また卒業生のお母さんと在学生の娘さんが校歌を一緒に口ずさんでおられるほほえましい光景も見受けられます。

他府県からの来館者は、平安時代の綜藝種智院等から続く京都の教育、文化の奥深さ、その一端を支えてきた町衆が、自治と学問の伝統を受け継ぎ富豪はもとより一般町民も醸出し建設した番組小学校より伝えられた貴重な学校文化財の豊富さを称賛されます。ただ他の場所で当館の事が話題になると、京都市民の中でてもその存在自体をご存知ない方もおられ残念で、折に触れて買い物帰りにでも一度立ち寄られるように勧めております。

これからも来館者との交流を深め京都の歴史を学んでいきたいと思っております。(注) 贈出=金品を出しあうこと



昔の学校あれこれ

第十二回

水泳場

昭和30年代後半から40年代前半頃に各小学校にプールができるのは河川などがその役割を果たしていました。

山科では四宮、諸羽、御陵、日ノ岡の船溜で昭和20年代後半よりそれぞれ音羽、山階、陵ヶ岡、鏡山小学校が水泳の授業を行っていました。

鏡山校記念誌には「当初疏水は遊泳禁止で教職員が毎日3回見回りをしたが、水泳する児童はなくならず頭を痛めていた。思い切って疏水に幾つかある舟つき場を水泳プールにした。長い太い青竹をロープで繋ぎ、水面に区切りをし、教職員・PTA・警察が協力し運営した。」とあります。しかし疏水での水泳は水質悪化により昭和40年代前半に禁止となり、昭和44年には安全のため中に入らないよう柵が設けられました。

また桂川には4つの水泳場がありました。昭和35年にはそのひとつ松尾橋桂川仮設水泳場が開設されました。ブルドーザで長さ150m幅80mの水泳場の整備をした大久保自衛隊に児童が感謝の花束を贈った記録が松尾小学校に残っています。大変な人気で子どもから大人まで多くの人で賑わった様です。

嵐山東小学校記念誌によると桂川も汚染がひどく、昭和51年に河川プールは廃止されたとあります。



(左)
「山科疏水 諸羽ダム」
昭和38年
鏡山小学校提供

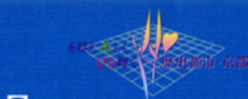


(右)
「水で溢れかえる桂川水泳場」
昭和40年代
松尾小学校提供

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町弘光寺下橋町437 (元開智小学校)
TEL. 075-344-1305 FAX. 075-344-1327

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下)100円
(20名以上の団体/大人160円/子ども80円)
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌日)
12月28日~1月4日



- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ2分
二丁目(御幸町通)より南へ歩5分